

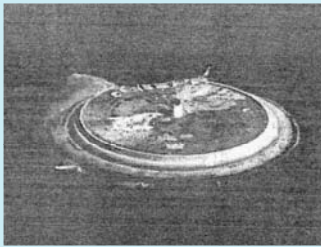


きかいの先についたドラムで石炭をほる「ロードヘッド」



左右2このドラムでかべを一度にけずる「ドラムカッター」

昭和時代になると、きかいを使って一度にたくさんの石炭をほることができるようになりました。



炭鉱では、有明海の海底からも石炭をほりだすようになりました。昭和26年には、海底の坑内に新しい空気をおくりこむため、海の中に人工島がつくられました。そのころ、干がたの中に島をつくるには、とても高いぎじゅつが必要だったそうです。

働いた人の願いを調べよう。

炭鉱の仕事は大変なものでしたが、炭鉱で働いた人達が、どのような願いをもっていらっしやったのかインタビューをしました。

わたしは炭鉱で石炭をほる仕事をしていました。有明海の地下深く、420m下がります。そして、人車に乗ったり歩いたりして、ほる場所に行くまでに1時間くらいかかりました。また、30℃をこえるととても暑いところで仕事をするので、つらいときもありました。

しかし、自分達がほった石炭が、大切なエネルギーとして日本の産業の発てんのために役立ってほしいといつも思っていました。



「わたしたちの町には、すごいきしがあつたんだね。でも、昔につくられた建物が今でもほぞんされているのはなぜだろう。」